

ヒットマン

2008(平成20)年4月3日鑑賞(試写会・御堂会館)

★★★



監督＝ザヴィエ・ジャン／出演＝ティモシー・オリファント／オルガ・キュリレンコ／ダグレイ・スコット／ロバート・ネッパー／ウルリク・トムセン／マイケル・オフェイ／ヘンリー・イアン・キュージック (20世紀フォックス映画配給／2007年アメリカ映画／93分)

第1章

アクションからコメディまで

……『バイオハザード』に続いて人気ゲームが映像に！ “エージェント47”の特徴はスキンヘッドだが、暗殺者としては少し目立ちすぎ……？ ターゲットがロシア大統領という設定と影武者的発想にビックリ！ ロシア連邦保安庁 (FSB) やインターポール (ICPO) との追跡劇が本来のテーマだが、坂和的注目点は、ウクライナ美女オルガ・キュリレンコ！ しっかり、そのヌード姿をインプットしなければ……。

『バイオハザード』に続いて人気ゲームが……

『バイオハザード』(02年)のヒロインがミラ・ジョヴォヴィッチ扮するアリスなら、それを凌ぐ人気のゲーム『ヒットマン』の主人公は、スキンヘッドが目立つ完全無欠の殺し屋“エージェント47”。彼が育ったのは、身寄りのない子供たちを暗殺者に仕立て上げる闇の組織。彼らは名前がなく、後頭部に彫り込まれたバーコードによってナンバーで呼ばれていた。

そんな新たなキャラに挑戦したのは、『ダイ・ハード4. 0』(07年)でブルース・ウィリスの敵役となったティモシー・オリファントだが、さて『ヒットマン』シリーズ化への道は……？

舞台はロシア、ターゲットはベリコフ大統領

舞台はロシア。“47”のターゲットは、穏健政策(?)を進めているミハイル・ベリコフ大統領(ウルリク・トムセン)というから、私はついロシアの昨今の現実と対比してしまったが、この映画が描くのはあくまで仮想の世界だからご安心を……。

たとえターゲットが大統領であっても、パーフェクトな殺し屋“47”はきっとその任務を達成するはず。現にベリコフ大統領は大量の血しぶきをまき散らしながら倒れたが、なぜかその直後彼は記者会見を……。こりゃ“47”が珍しく任務を失敗したの……。それとも、ひょっとして、あれはベリコフ大統領の影武者……？

■ スターリンの影武者は合計4人……？

08年4月6日付毎日新聞の朝刊には『スターリンの影武者』47歳下俳優が告白」と題する驚くべき記事が掲載された。これは、4月3日付のロシア大衆紙コムソモリスカヤ・プラウダ（週刊版）に掲載された、スターリン（1879～1953年）の影武者だったとする人物のインタビュー記事を紹介したもの。

同紙によると、スターリンより47歳年下にあたるフェリックス・ダダエフ氏は、メーキャップを駆使して年長の「独裁者」に扮していたとのこと。彼が任務を命じられたのは、1943年に国家保安委員会（KGB）の前身である内務人民委員部から呼び出されたことによるもの。同氏は、スターリンに代わってモスクワ「赤の広場」の壇上からパレードを観閲したり、演説や接客まで代行することもあったというからビックリ！ さらに、他に3人の影武者がいたことも……。

ソ連には20世紀中頃の独裁者スターリンに影武者がいたのだから、21世紀に入った現在のロシアの大統領ベリコフに影武者がいたとしても、そりゃ当然……？

■ ウクライナ生まれの美女に注目！

私の理解では、『ヒットマン』最大の話題は、妖しげな娼婦ニカ役で登場するウクライナ生まれの美女オルガ・キュリレンコ。『葉指の標本』（05年）の主役で映画デビューしたオルガは、『007』シリーズ最新作の『Quantum of Solace』（08年）でメインのボンド・ガールを務めるとのことだから、『ヒットマン』のニカ役はいわばその予行演習……？

完璧な暗殺者が目撃されていた！ その目撃者が娼婦ニカ。彼女は一体どんな役割を……。それがこの映画の大きなポイント。果たして彼女の瞳や涙が完璧な暗殺者“47”の心を動かすことになるのだろうか……？

ミラ・ジョヴォヴィッチのようなグラマラスな姿態をお好みの方には、オルガのスレンダーなヌード姿は少しモノ足りないかもしれないが、私はこれくらいのお尻とオ

ッパイの方が断然好き。したがって、この1作だけで彼女の名前と顔とヌード姿が私の頭の中にしっかりインプットされることに……。

ロシア連邦保安庁 vs. インターポール

『暗殺・リトビネンコ事件（ケース）』（07年）で有名になったのがロシア連邦保安庁（FSB）だが、この映画で“47”を追いつめるFSBの責任者として登場するのがユーリ・マルクロフ（ロバート・ネッパー）。面白いのは、彼がベリコフ大統領の影武者づくりに重大な関与をしていたこと……？

他方、ロンドンに本部があるのがインターポール（ICPO）。これは国際的な犯罪防止のために世界各国の警察により結成された任意組織だが、その責任者として“47”を追跡しているのがマイク・ホイッティア（ダグレイ・スコット）とその忠実な部下ジェンキンズ（マイケル・オフエイ）。FSBに比べると、彼らの捜査能力の高さは際立っているが、肝心の捜査権は一体どちらに？ 舞台がロシアでは、ICPOがFSBに比べて圧倒的に不利なことは明らかだが……。

大統領の弟が武器商人とは……？

アメリカの大統領選挙では、ちょっとしたスキャンダルがあれば大ゴト。しかし、ロシアでは弟がギャングまがいの武器商人をしていても、兄貴は大統領になれるらしいからビックリ……。ベリコフ大統領暗殺の依頼者がベリコフ大統領自身だったことを知り、さらに自分が育った闇の組織から狙われていることを知った“47”の反撃は素早かった。

“47”のターゲットは、そんなベリコフ大統領の弟ウードレ（ヘンリー・イアン・キューリック）に向かうことに。それは、ウードレを血祭りにあげれば、きっと、その葬儀にホンモノのベリコフ大統領が出席するため。つまり、その葬儀の現場は再度（？）ベリコフ大統領を暗殺する絶好のチャンス……？ しかし、そんな作戦がホントに実現できるの……？

お手並み拝見！

『バイオハザード』にしても『ヒットマン』にしても、あるいは『007』シリーズや『ランボー』シリーズにしても、最後にはヒーローが勝つことが約束されているから、

いつどんな危機的状況に陥っても安心して観ていられるもの。むしろ、その危機が大きければ大きいほど、それをはねのけたヒーローの知恵や力が優れていることを実証することになる。その意味で、“47”に降りかかってくる試練は結構大変なものだから、それをいかにはね返していくかに注目しながら、“47”のお手並みを拝見しよう。

もっとも、彼の知恵や力には大いに感心するが、暗殺者があんなに目立つスキンヘッドで歩き回るのが、私にはイマイチ理解できなかったが……。

2008(平成20)年4月7日記

ミニコラム

くいだおれ太郎騒動のバカバカしさ

85年と03年に阪神タイガースが優勝した時、戎橋（いわゆるひっかけ橋）から道頓堀川にダイブする若者（バカ者！）が続出したが、くいだおれ太郎騒動のバカバカしさはこれと同質・同根。道頓堀の飲食店「くいだおれ」が08年7月8日に閉店したのは、あのスタイルの「何でもあり食堂」が時代の流れに対応できなかったため。つまり、「敗者は去るのみ」という当然の結末なのだ。ところが、おバカなマスコミが閉店を惜しむ大衆の姿というステレオタイプな報道を連日大量に流したため、店の前はくいだおれ太郎と記念撮影する人たちでいっぱい。しかしこれは、愛着のある料理店の閉店を惜しむ行動ではなく、話題になっているから見学しておかなければ、というバカな大衆心理の最たるもの。つまり、キムタク主演のあの人気番組を観ておか

なければみんなと同じになれないから、という盲信的な集団帰属欲の典型だ。ちなみに私はよく道頓堀を歩くが、くいだおれは昔1度入っただけ。私が1人で行くのは某ラーメン店だし、ミナミで一席設ける場合でもこの店の選択はありえない。その理由は明白。この店以上においしくて安く雰囲気の良い店がいくらでもあるからだ。

59年間続いた大衆食堂くいだおれにホントに愛着があるのなら、その人はなぜお店に再三足を運んで飲食しなかったの？ あの騒動をくいだおれへの庶民の愛着の表れだとした報道を、私は偽装報道だと思っている。それを連日報道した日本のマスコミのバカバカしさとそれにまんまと乗せられた大衆のバカさ加減を、一体どう考えればいいのだろうか……？

2008（平成20）年8月5日